昭和30年12月の創刊から500号　昭和30年12月生まれの宇部順子さんが、500字で、再刊した昭和39年４月生まれの合砂ルリ子さんも500字で「広報ふだい」によせる思いを語ります。そして、たくさんの住民の方々が500号を記念して熱いメッセージを届けてくださいました。「広報ふだい」500号はこれまでのみなさんの協力で発行することができました。ありがとうござます。

地域に密着した広報

宇部　順子さん（48歳・地方公務員）

宇部さん
（力持）

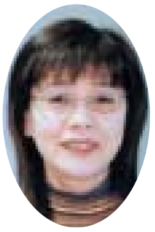
「広報ふだい」五百号、発行おめでとうございます。栄えある第1号が昭和三十年十二月に発行されたという理由で、同年同月に生まれた私に「広報ふだい」創刊五百号に寄せ、五百字で感想をと、広報担当者から感想依頼が舞い込みました。村出身でない私はためらったのですが、どうしても三十年の十二月にこだわりたい担当者の並々ならぬ熱意に負け、脳みそを絞っている次第です。

昭和四十五年四月に普代村にやって来て、初めて「広報ふだい」を拝見したとき驚いたことは、こんなに地域に密着した広報が存在していたのかということです。村民の皆さんが、広報を楽しみに待っていることもこれで納得しました。大きな町の広報は、その月々の催し物や、予防注射の予告くらいなものでしたから。

私が広報を面白いと思うことの一つに、内容は同じなのに担当者によって、紙面がぜんぜん違うということです。個人的に、毎年興味を持って拝見している広報は、四月と一月です。四月は、赴任されてくる先生方のお名前やお顔です。これからの普代を担う児童・生徒の指導をしてくださる方々のことです。一月はその児童・生徒たちが成人式に出席し、大人の仲間入りをしますがその写真を見る楽しみです。

「広報ふだい」と私

合砂　ルリ子さん（39歳・自営業）



合砂さん
（緑区）

「広報ふだい」五百号、おめでとうございます。一口に五百号といってもこれまでいろいろ大変だっただろうと、歴代の広報担当者の方々に感謝と労をねぎらいたいと思います。

私は、久慈市の侍浜出身です。縁あって普代村の方と結婚し、普代に住んで十年になりますが、普代のことを知る一番の情報源が広報ふだいでした。毎月届けられる広報を開くたびに、こんなところがあるんだ！こんな素晴らしい人たちがいるんだと、巨大な情報を得た気分で、楽しみながら、普代のあれこれを勉強させてもらいました。それは、現在も進行中です。

私が広報を手にしたとき、見る順番は決まっていて、まず村のこよみ、次にみんなの広場を見ます。内容も充実していて、とても参考になります。特に広報がカラーになってからは見やすくなり、今月号はどんな人たちが登場するのだろうと期待したり、掲載写真にも感動しています。

子どものいない私は友達といえば、漁業を営む夫の仕事を手伝いながら知り合った人たちなど限られています。だから、「広報ふだい」は生活の中になくてはならないものの一つになっています。

これからも普代村発展のために、楽しい情報、勉強になる情報をお願いします。

創刊500号おめでとう

隠岐　静江さん（50歳）＝埼玉県さいたま市在住＝

「広報ふだい」五百号、おめでとうございます。あまり記憶にないのですが、私が小学生のときに創刊されたのですね。村を離れて三十五年になりました。

私が中学生のころはバス通学で舗装されていないでこぼこ道にたくさんの長いカーブがあり、普代の駅までの道のりがとても長かったことが思い出されます。今の村は交通の便もよくなりとてもきれいになりました。私の広報の楽しみはもちろん村の様子がよくわかることですが、出番ですおじいちゃんおばあちゃんです。

子どものころにどこかで見たなつかしい顔が見れるからです。これから先六〇〇号、七〇〇号と続いていくと思います。日々の情報、取材など毎月のご苦労は大変なことかと察します。今後の普代村がより一層発展することを願っています。